

2025年をふりかえって

実践経験で導く確かな成長

Your journey starts here!



広島経済大学
 広島
 報

発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園
五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号 (082) 871-1000(代)
オフィシャルサイト <https://www.hue.ac.jp/>

2・3 面 世界へ一歩踏み出す「国際交流」という経験
4 面 学生主体で仲間と共に社会課題に取り組む「プロジェクト」という経験
5 面 社会とつながる「ゼミ活動」という経験
人間形成を促す「部活動」という経験
6 面 私のゼミナール雑感／アカデミックの扉

学生たちの学びの日々を紹介します！

「学ぶことの真の目的は、行動すること。」

“指示待ち人間”になるな、勇気をもって自ら挑戦できる人間になってほしい。

広島経済大学では20年前から、「ゼロから立ち上げる」^{こうどうじん}興動人の育成にまい進してまいりました。教室で学んだ知識を行動に移すこと、行動した経験を活かして学びを深めること、この繰り返しが学生の真の成長を促すと考え、社会科学系の大学としてはめずらしい数の、経験の機会を用意しています。

2025年も、学生たちは多くのことに挑戦し、経験を積みました。限られた紙面ですが、可能な限り、学生の声と共にお伝えいたします。学生たちの充実した日々をご覧いただければ幸いです。

学長 石田 優子

世界へ一步踏み出す 「国際交流」という経験



国際交流

International exchange

2025年度も世界15か国以上から留学生がやってきました！ また、ビジネスや外交の最前線で活躍する方を積極的に招くことで、“キャンパスの国際化”を加速させています。本学では、留学生と気軽に交流できるよう設計された「ワールドカフェ」、英語で留学生をサポートする「ランゲージパートナー制度」、国際交流イベントの定期開催など、多くのユニークな経験の場を用意。キャンパスで育んだ、「もっと話したい」「もっと知りたい」といった知的好奇心が、語学学習への意欲や留学等につながっています。



進む！ キャンパスの 国際化

2025年度も海外のVIPがキャンパスへ！



参加した学生の声

- ファンを大切にしたい経営戦略が印象的だった。
- 挑戦することの大切さを改めて感じた。
- 世界のスポーツ業界で活躍するプロと関われる機会は本学ならではのと思う。
- 国際的に活躍できる人材になりたいと思った。

スポーツ経営を語り合う



ルーヴェン・カスパー氏

VfBシュトゥットガルト取締役兼営業本部長(CMO)

10月30日、「第12回国際スポーツサロン」で講演するドイツのルーヴェン・カスパー氏が来学されました。ブンデスリーガ（ドイツ1部）の名門クラブ「VfBシュトゥットガルト」で取締役兼営業本部長を務め、日本サッカー界の国際化や日独文化交流、スポーツを通じた平和文化の発展に尽力されている方です。この日はスポーツ経営学科の授業「Major Sports in Japan」に特別講師として登壇した後、明徳館5階で学生とのミーティングに参加。学生一人ひとりがカスパー氏にクラブ経営やスポーツビジネスに関する質問を投げかけ、活発な意見交換が行われました。



専門知識の深さと学生の話に真摯に向き合う姿勢が印象的でした。国際的視点や実践的な考え方に触れ、とても刺激を受けました。自分の意見を持ち伝えることの大切さ、そして専門性だけでなく柔軟な発想や異文化理解も重要だと気づきました。より語学力を高め、今後も積極的に国際交流の機会に参加していきたいです。

スポーツ経営学科1年 楠本 真音さん 岡山県／岡山東商業高校出身

ラルフ・ペルジケ氏

ドイツ大使館国防武官・空軍大佐

11月4日、ドイツのラルフ・ペルジケ大佐をお招きし、座談会・昼食会を開催しました。座談会には竹林栄治ゼミの学生、異文化コミュニケーショングループ「VIVA」の学生など計28名が参加しました。学生たちは英語で質問や意見を交わし、議論はドイツの文化からヨーロッパの安全保障情勢、さらには日独の平和教育へと広がりました。平和の重要性や、次の世代へ受け継ぐことの重みを共有し、「戦争を二度と繰り返さない思いは、日本とドイツで同じ」という声も上がりました。広島という地で、平和について改めて向き合う機会となりました。

政治から文化まで丁寧に答えてくださり勉強になりました。大佐が日本を好きなことがわかり嬉しかったです。私も平和に関する映像制作を行ってきましたが、平和について一人ひとりが考えを持ち発信することが大切だと感じました。他国の方と話せる機会は貴重で、日独両国について知ることができました。いつかドイツに行ってみたいです。



メディアビジネス学科4年 山下 愛実さん 広島県／広島観音高校出身

平和について語り合う



参加した学生の声

- 海外の知識を深める良い機会になった。
- 日本人とドイツ人の考え方は似ていると知れた。
- 両国とも平和の重要性を大切にしていると感じた。
- 平和について次の世代へ伝えていくことが大事だと思う。



経験を活かして
海外へ



ここが私のターニングポイント

将来留学したいという思いから英語学習に取り組んでいましたが、入学後ランゲージパートナー制度を知り、すぐに参加しました。大学生活を交換留学生と過ごすうちに、英語でのコミュニケーション能力が高まり自信ができました。大学から留学費用の支援があったことで、留学の夢が具体化し、2年次にカナダのプリティッシュ・コロンビア大学への短期語学留学へ！メキシコや台湾、韓国といった多国籍の学生と一緒に授業を受けた3週間は刺激的で、視野が広がり、世界中のより多様な文化や価値観に触れたいと思うようになりました。帰国後も全て英語で授業が行われる留学生科目を履修したり、交換留学生の宿舎に住み込みで交流し日々の生活をサポートするRA(レジデント・アシスタント)を担当するなど、積極的に経験を積みました。おかげで今、私はドイツのフォルツハイム芸術工科大学に半年間の長期交換留学中です。こんなにも海外に触れる経験と機会にあふれている、この大学でよかったと心から思います。




VIVAでも活躍！

メディアビジネス学科3年
田村 昂樹さん
広島県／崇徳高校出身

今、ドイツに留学中です

今、ViVAが熱い！

語学力を活かしたボランティア活動

「ViVA」は、一定の語学力あるいは留学経験を持つ日本人学生と正規留学生による異文化コミュニケーショングループで、短期交換留学生のキャンパスライフや日常生活をサポートしています。留学生のためのイベントの企画・運営など、活発な活動を通じて国際感覚を磨き、グローバルな視野を広げています。

ViVAへの所属を目指して英語の勉強に励む学生も増えています！







海外で国際交流

国際交流

2025年度 TOPICS

国際交流のTOPICSが盛りだくさん。
その他のTOPICSはこちらをご覧ください。



広島で国際交流

スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州）

9月12日～23日、経営学部スポーツ経営学科の授業「スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州）」で、ドイツとイギリスにおいて海外研修を実施しました。講義や視察を通じて、スタジアム運営やチーム経営など、プロスポーツの仕組みを学び、目標達成の方法論や誠実さの重要性、ソリダリティ（連帯）といった価値観にも触れました。また、ブンデスリーガやプレミアリーグの観戦では、国ごとに異なるサッカー文化も体感しました。



第12回 国際スポーツサロン

10月31日、スポーツを通して広島の国際化と街づくりを推進する「国際スポーツサロン」を開催しました。ドイツのサッカークラブ「VfBシュトゥットガルト」の取締役兼営業本部長であるルーヴェン・カスパー氏を招き、本学の名誉博士の称号を贈呈すると共に、「ドイツサッカーの発展と今後の役割」をテーマにご講演いただきました。

似島ドイツ兵俘虜追悼式

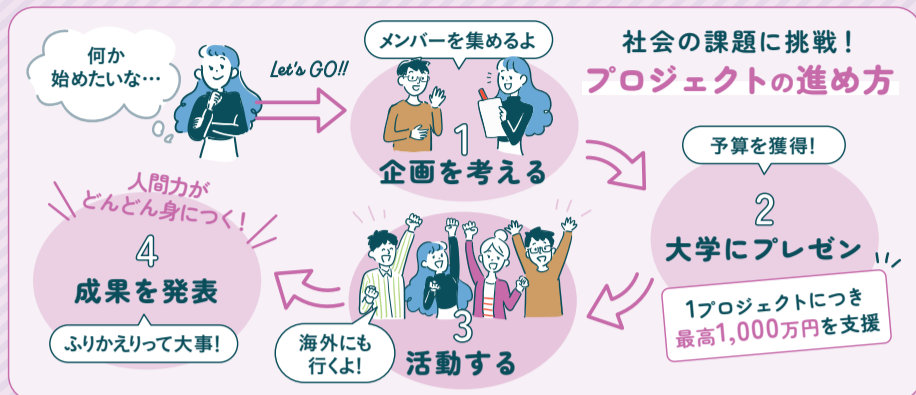
11月2日、竹林栄治ゼミが戦争記憶の継承を目的とした「似島ドイツ兵俘虜オットー・パーペ氏追悼式」を開催しました。4回目となる今回は、ドイツ大使館国防武官のラルフ・ペルジケ空軍大佐を招待。地域に残る日独交流の歴史に触れながら、戦争の記憶を次世代へ伝える責任と平和の尊さについて、考えを深める時間となりました。



学生主体で仲間と共に社会課題に取り組む 「プロジェクト」という経験

プロジェクト

Project activities



「広島経済大学といえば興動館^{こうどうかん}」といわれる、本学のユニークな教育プログラム。本プログラムのうち、とりわけ学生が主体となって「国際交流」「社会貢献」「地域活性」「経済活動」などのテーマに取り組むプロジェクト活動は、大きな経験の機会です。

2025年度は、17のプロジェクトが、地元企業や官公庁、地域の方々の支援を受けて活動しました。12月に開催したプロジェクト活動報告会では、涙する学生の姿も。本気だからこそ得られる、一生モノの経験があります。

活動を通じてできた地域の方々とのつながり。感謝を伝えたい！

大学で何かに本気で取り組みたいと思い、コミュニティFM放送局運営プロジェクトに参加しました。番組制作に携わる中、大きな転機となったのは3年次でリーダーになったこと。メンバーで話し合い、コミュニティFMとしての役割を果たすため、防犯・防災や地域密着を掲げた番組制作などの新企画に取り組みました。広島県警察の方をゲストに防犯の話をしていただいたことがきっかけでメンバー全員が「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けたり、さまざまな地域イベントにお声がけいただいたりと、地域の多くの方々との関係ができました。4年次に学生と地域とで創る「祇園・興動祭」の実行委員長になったのも、これまでお世話になった地域の方々に感謝を伝えたいと思ったから。興動館はまさに人間力を養える場です。やりたいことをただやれるわけではなく、教職員の方々が本気で自分たちに向き合ってくれ、一緒になって真剣に活動する意義を考えてくれます。他大学に進学した友人に聞いても、こんな経験ができる場はないそうです。他にはない本学だけの特色だと思います。こうして得た経験の数々は就職活動の際にも活かされ、面接時に自分のこれまでの取り組みを興味深く聞いていただけたことから、希望通りの企業に内定をいただくことができました。



ここが私のターニングポイント



経営学科4年
石田 直太郎さん
広島県／広高校出身

興動館プロジェクト 2025年度 TOPICS

第20回 祇園・興動祭を開催



11月16日、興動館で「第20回祇園・興動祭」を開催しました。学生が主体となって企画運営し、「二重縁～これまでのつながりをより深くすると共に新たなつながりを～」をテーマに地域の方々とのふれあいを深めました。神楽や屋台コーナー、子ども向け体験企画、興動館プロジェクト紹介展示など、多彩なイベントを実施。学生と地域、約4,000名の来場者が一体となって盛り上がる一日となりました。

興動館開設20周年記念プレイベント「興動館プロジェクトホームカミングデー」を開催

11月16日、明徳館で、興動館開設20周年記念プレイベント「興動館プロジェクトホームカミングデー」を開催しました。興動館プロジェクト経験者約3,200名のうち80名と、石田恒夫理事長・石田優子学長をはじめとする教職員19名が参加。講話や歓談、交流企画を通じて世代を超えたつながりの輪が広がりました。2026年度は、リーガロイヤルホテル広島において記念イベントの開催が予定されています。



ここが私のターニングポイント

一人では踏み出せなかった一歩を、興動館が後押ししてくれました。学生時代に最も学んだのは、目的を設定する力。「なぜこのプロジェクトをやるのか」を仲間と遅くまで語り合い、一つのベクトルに向かって進んだ経験は、今も私の力になっています。現在、会社の代表として、チーム全体を一つのゴールに導く際に、あの時の経験が活かしていることを日々実感しています。興動館での学びは、単なる思い出ではなく、今も成長し続ける原動力となっています。

株式会社フレンドリースポーツ 代表取締役 末益 英樹さん 経済学部2014年卒業
広げよう!! 平和折り鶴プロジェクト出身

その他TOPICS多数!
続きはこちら



この内容をもっと知りたい方は
こちら



この内容をもっと知りたい方は
こちら



この内容をもっと知りたい方は
こちら



この内容をもっと知りたい方は
こちら



本学ならではの経験
他にも盛りだくさん

社会とつながる「ゼミ活動」という経験

4年間一貫少人数制で学び、企業とのコラボも多数



ゼミ活動

Seminar activities

1年次から始まる全員必修・少人数の
広経大ゼミの4年間



生成AI×卒業論文 複数ゼミで活用実験中

全員に卒論提出を課している本学では、石野亜耶准教授(ビジネス情報学科)が開発した「生成AIを活用した卒業論文添削支援システム」を、学生に使用してもらう実証実験を実施しました。AIが答えを生成するのではなく、文法や学術的表現などの修正すべき箇所を指摘するもので、学生による自律的な修正を支援。AIの新しい活用を模索しています。



学生の声

- 思ってもみないところに誤りがあって驚いた。
- AIを使うことで、指摘がわかりやすかった。
- とても参考になった。
- 便利で役に立った。

本学では、1年次からスタートするゼミナール(以下ゼミ)でも、実践を通じて研究を深める、アクティブなゼミ活動を重視。2025年も多くのゼミが、企業や地域団体から出された課題について、それぞれの研究分野を活かして取り組みました。成果を発表し、企業等からフィードバックをもらう経験は、大きな学びにつながっています。



ゼミ活動 2025年度 TOPICS



詳しくはこちら

- 兎内ゼミ×森永乳業 森永アロエヨーグルトのシェア拡大策提案
- 藤原ゼミ×平田観光農園 規格外イチゴで地域ブランド商品開発
- 細井ゼミ×アスカネット VTuberで地域活性化を考える研究会実施
- 林ゼミ×SAH×広島ドラゴンフライズ 集客イベントの企画運営
- 後藤ゼミ×中の棚商店街 お店PRのインスタショート動画制作
- 阿部ゼミ×CHINTAI 新入生に役立つフリーペーパー制作 など

部活動

Club activities

人間形成を促す「部活動」という経験

学びと部活の両立でデュアルキャリアをサポート



ここが私のターニングポイント



部活動も人間形成の大事な経験の場だと考える本学では、学業と部活動の両立を促すサポートで、選手としてのキャリアの先(卒業後)を見据えた指導を行っています。経験豊富な指導陣、充実した施設設備に加え、スポーツ支援課などのサポート体制で学生の挑戦と成長を支援しています。

選手としての挑戦も、教員の夢も実現でき感謝

陸上競技を続けながら教員になる夢も叶えるという挑戦をやり遂げられたのは、大学の「学び優先」の方針と支援があつてこそだと感謝しています。教職課程は授業数が多く練習に遅れる日もありましたが、指導者も仲間も理解してくれ、足りない分は自主練でカバー。学業成績が悪いと大会出場させない方針も、今思えば私たち学生のためを思っていたこと。緊張感をもって、学びと競技の両立に取り組みました。2年次後期から主将になり、チームをまとめながらの両立は大変でしたが、必死に頑張った末に自己ベストを更新でき、仲間と全日本大学駅伝(伊勢路)出場を果たせたのは、かけがえのない経験です。

経済学科4年 小川 晴也さん 兵庫県/山崎高校出身



サークルニュース

その他のサークルニュースはこちらをご覧ください。



陸上競技部が第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025陸上競技 男子5000mで5位入賞

11月17日～25日、東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場にて開催された第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025陸上競技において、陸上競技部の佐々木昂さん(経済学科3年・鳥取県/米子松蔭高校出身)が5000mで5位、10000mで10位の成績を残した。デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会が主催する国際大会で、デフアスリートを対象に夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されている。日本では初めての開催で、また1924年にパリで第1回大会が開催されてから100周年となる、歴史に残る大会。

今大会の結果について佐々木さんは、「初めての世界の舞台は緊張しました。また、世界との実力の差を感じましたが、多くの声援があり、楽しいレースでもありました。今回の世界大会は自分にとって貴重な経験になったと感じています。多くの方々の支えがあり、いろいろなことに挑戦をさせていただきました。本当にありがとうございました」と語ってくれた。



男子バレーボール部が第78回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会に出場

12月1日～7日、東京都・大田区総合体育館等にて開催された第78回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会において、1回戦で金沢大学と対戦し、3-2で勝利を収めた。2回戦は順天堂大学と対戦し、0-3で敗戦した。



陸上競技部が日本グランプリシリーズ TWOLAPS MIDDLE DISTANCE CIRCUITで優勝

7月12日、東京都・世田谷区立大蔵運動公園陸上競技場にて開催された日本グランプリシリーズ TWOLAPS MIDDLE DISTANCE CIRCUITにおいて、陸上競技部の東秀太さん(経済学科4年・兵庫県/三田松聖高校出身)が男子800mで優勝した。



陸上競技部が秩父宮賜杯 第57回全日本大学駅伝対校選手権大会に出場

11月2日、愛知県熱田神宮～三重県伊勢神宮にて開催された秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会において、陸上競技部が、5年ぶり24回目の出場を果たした。8区間106.8kmを粘り強く走り抜き、結果は24位となった。



軟式野球部が第41回西日本学生軟式野球選抜大会で32年ぶり2回目の優勝

11月10日～13日、山口県・オーヴィジョンスタジアム下関にて開催された第41回西日本学生軟式野球選抜大会において、西九州大学を12-0で下し、32年ぶり2回目となる優勝を決めた。



サッカー部が第74回全日本大学サッカー選手権大会に出場

12月6日～27日、千葉県・フクダ電子フィールド等にて開催された第74回全日本大学サッカー選手権大会において、グループリーグ第1戦で桃山学院大学に2-1、第2戦で甲南大学に1-0で勝利した。3戦目に桐蔭横浜大学と対戦し、1-2で敗戦した。結果は2位で決勝トーナメント進出とはならなかった。



2025年度 学生懸賞論文審査結果

▽最優秀賞(1編)
西本裕貴(ビジネス情報学科4年)
【論文題目】人間は何を怖れと感じるのか?—ホラーゲームの人間キャラクターの特徴分析—(担当教員 石野重耶)

野間口裕璃(ビジネス情報学科4年)
【論文題目】近大野球部に勝利するための戦略提案—野球データからの配球パターンと打球方向の分析—(担当教員 石野重耶)

【論文題目】レビューがあるから安心できる?—低評価レビューが安心感と購入頻度に与える影響に関する実証研究—(担当教員 細井謙一)

▽学長表彰者
TOEIC 700点以上
上 藤井竜聖(経営学科3年)
TOEIC 600点以上
上 坂本大樹(経済学科4年)、NINETHI THUY TRANG(経済学科4年、橋田剛(経済学科3年)、末廣愛葉(経営学科3年)

◆宅地建物取引士 吾郷颯汰(経済学科4年)
◆学部長表彰者
日商簿記検定(2級) 広瀬凱大(経済学科4年)、茶山翔一(ビジネス情報学科4年)



最優秀賞・優秀賞受賞者



奨励賞受賞者



学長表彰者



学部長表彰者

私のゼミナール

雑感

99

経済学部
経済教授 賢了 平本

本学のゼミは、ほぼ一貫して学生を支えることができる。その中には、4年間私のゼミで学ぶ学生もいる。入学から卒業までの学生の成長を垣間見ることのできる幸せが教員にはある。卒業後は精神的にも経済的にも自立した大人として社会を支える一員としての活躍が期待される。ゼミ生には力強く社会に飛び出てほしいし、頼りにされる人になつてほしいという

ての茶話会や懇親会などがそれぞれある。どれも楽しいものだが、教室だけでは見えないゼミ生の能力や個性を垣間見ることができ。思わず「この学生は楽しい雰囲気作りがうまいな」とか「こんな仕事に適性があるかも」などと、あれこれと脳裏をよぎること

今しかできないことに全力を



こうした活動のみならず、これからの長い人生において今しかできない、あるいは今だからこそできるということがあるとすれば、ゼミ生はそれに全力で取り組む、悔いのないよう

過(して)ほしい。ゼミ教員はそれを支え、応援するという大事な役割を担っている。そして卒業する時、ゼミ生は本学での4年間を総括することになる。時間経過とともにそれらゆが、頑張ったことや楽しかった情景が目につくこともあろう。それが明日を頑張るためのささやかな元氣やエネルギーになればと思う。さまざまな角度からゼミ生の可能性を引き出す楽しさが、ゼミにはある。

(アセアン経済、開発経済、開発経済論特論I・II(院)ほか)

サークル戦績

○空手道部

▽第69回全日本大学空手道選手権大会【男子団体組手】本田健・松浦大輝・宮本竜真・松島光羽・榎本庄平・岩井翔汰【女子団体組手】西田美咲・仙田紗也華

▽内閣総理大臣杯第53回全日本空手道選手権大会【男子団体組手】宮本竜真(広島県選抜チームとして出場)

○弓道部
▽第73回全日本学生弓道選手権大会【女子個人決勝】詰詰 土江静奈

○硬式庭球部
▽第78回全日本学生硬式野球選手権大会(ベスト4)

○男子バレーボール部
▽第78回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会

○陸上競技部
▽第41回U20日本陸上競技選手権大会【男子800m】伊藤大弥・二宮大響

▽第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走 小川晴也・東秀太・藤井奏汰(中四国学連選抜として出場)(18位相当)

▽秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会(総合24位)

▽第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025【男子5000m】佐々木昂(5位)【男子10000m】佐々木昂(10位)

○ウェイトトレーニング愛好会
▽2025国民スポーツ大会 パワーリフティング競技

教養教育部 教授 山本 貴裕

トランプの支持層の世界観を歴史的に理解する

私の研究テーマはアメリカの保守派の世界観である。とくにその宗教的背景に関心を持っている。昨年の大統領選挙でドナルド・トランプが再選されたことにより、彼がなぜ大統領に選ばれたのか、誰が彼を支持しているのか、などの点に人々の関心は集まっている。

だが、日米のメディアや学者たちは、これまでトランプ現象を「低学歴・白人至上主義・陰謀論者」による「一時的かつ異常な現象」として片付け、トランプを支持する人々のことを真の意味で理解しようとしてこなかった。トランプの支持層を、「福音派」=「狂信的な原理主義者」や、「スコット・アイリッシュ」=「人種差別主義的な田舎の白人貧困層」としてく

る分析方法がその典型である。このような風潮のなかで私が注目しているのが、これら2つのグループの複雑で多面的な歴史である。リベラルなオールドメディアや研究者たちは、彼らの歴史を「自由で寛容な」アメリカ史の「汚点」のように扱い、その存在に蓋をしてきたが、彼らの歴史を改めて見直してみると、私たちがそのメディアを通じて知っている「自由なアメリカ」の一部であるという点に気づかされる。

いくつかの例を挙げてみよう。19歳で問題を起こし警察に逮捕されたジャスティン・ビーバーが20歳でキリストを受け入れた背景には、「ボーン・アゲイン」(魂の再生体験)を重視する福音派の伝統がある。スティーブ・ジョブズがiPhoneを世に送り出す際に行った、かの有名なプレゼンのルーツは、19世紀前半に活躍した福音派の先駆者までさかのぼれる。一見無力な個人が巨大な権力に立ち向かうというハリウッド映画によくみられるストーリーの原型は、常に不当な権力と戦ってきたスコット・アイリッシュの荒々しい歴史のなかに求めることができる。このように、歴史には現在を深く理解するためのヒントが隠されているのである。



『リベラルなアメリカの「失われた魂」たち』
山本 貴裕 著、
株式会社 彰流社、2025年

アカデミックの扉

door of Academic

～研究紹介～

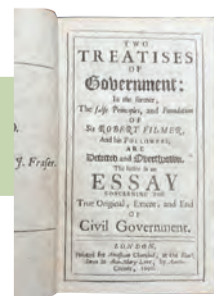


いくつかの例を挙げてみよう。19歳で問題を起こし警察に逮捕されたジャスティン・ビーバーが20歳でキリストを受け入れた背景には、「ボーン・アゲイン」(魂の再生体験)を重視する福音派の伝統がある。スティーブ・ジョブズがiPhoneを世に送り出す際に行った、かの有名なプレゼンのルーツは、19世紀前半に活躍した福音派の先駆者までさかのぼれる。一見無力な個人が巨大な権力に立ち向かうというハリウッド映画によくみられるストーリーの原型は、常に不当な権力と戦ってきたスコット・アイリッシュの荒々しい歴史のなかに求めることができる。このように、歴史には現在を深く理解するためのヒントが隠されているのである。

知の系譜 No.62

ロック「統治二論」初版第2刷 1690(1689)年 ロンドン刊
[Locke, John], 1632-1704.
Two Treatises of Government.
London: Awnsham Churchill, 1690 [1689].

17世紀イギリスの哲学者ジョン・ロックが著した本書は、近代民主主義思想の基礎を築いた名著として広く知られている。当時のヨーロッパでは、政治とキリスト教会が密接に結びつき、カトリックとプロテスタントという二大宗教の対立が政治に大きな影響を与えていた。イギリスではプロテスタントの一派であるイギリス国教会が主流であったが、カトリックを信仰するジェームズ2世が王位を継承し、議会の反対を押し切ってカトリック教徒への制限を緩和する政策を進めたため、議会や国民の不満が高まった。国王派は「王の権力は神から授けられた」とする王権神授説を根拠に絶対王政を正当化したが、ロックはこれに反論した。ロックは、政治権力は神から与えられるものではなく、国民の合意に基づき、絶対王政を否定した。また、人間は生まれながらに自由で平等であり、生命・自由・財産の権利を持つと論じた。本書は名誉革命の直後の1689年に匿名で出版され、ジェームズ2世の追放と、プロテスタントを信仰するウィリアム3世とメアリー2世を迎えた名誉革命を理論的に擁護する役割を果たした。その後、ロックの思想は18世紀の啓蒙思想とともに広がり、アメリカ独立宣言やフランス革命に思想的影響を与え、近代民主主義の発展に大きく貢献した。



人事

新任

事務職



国際教育交流センター係長
高橋 まゆみ

SNS公式アカウント
最新情報発信中!

ぜひ、フォローしていただき、
大学や学生の日々の取り組み
をご覧ください。

Facebook



X (旧 Twitter)

